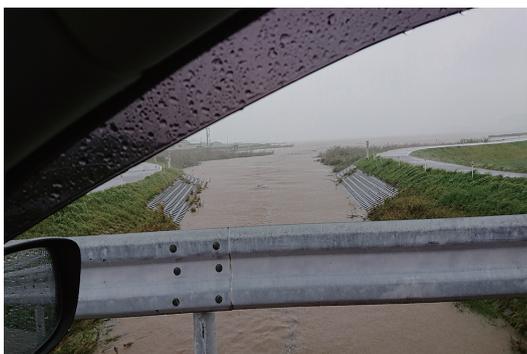


# 防災特集

9月1日は防災の日  
いざという時の備え、十分ですか？



令和元年9月台風15号による水位の上昇



平成25年10月台風26号による被害



令和2年4月に発生した大雨による被害



平成30年3月に発生した突風被害

## コロナ時代の 災害時避難

## ハザードマップ の確認を

大雨などによる土砂災害や南海トラフ巨大地震など、自然災害は、いつ発生するかわかりません。

あなたがこれを読んでいる今、  
かもしれません。

普段から心がけ、備えることが  
あなたの命を守ります。

今、新型コロナウイルスの感染リスクもある中で、避難のあり方が「分散避難」重視へと変わりつつあります。

状況にあわせた適切な避難行動を確認しておきましょう。

お住まいの地域が「土砂災害警戒区域」や「浸水想定区域」に入っていないかを防災ハザードマップ（以下マップ）で確認

しましょう。自宅周辺のほか、職場や学校のあるマップでもそれぞれのリスクを確認しましょう。マップはホームページからも確認できます。また、スマートフォンをお持ちの方はカタログポケット（無料アプリ）からでもマップを閲覧することができます。



ハザードマップ(市HP)の  
閲覧はこちらから▶



# 雨が降り始めた ら警戒情報を

テレビなどで、気象警報や「土砂災害警戒情報」が発表されていないか注意して確認しましょう。また、行方市情報メール（斉配信サービスに（メールマガジン）登録することで、気象・地震、災害時の避難情報や緊急のお知らせなどの情報を、いち早く知ることができます。



市内での冠水箇所

メールマガジンの登録はこちらから▶  
※ iPhone をお使いの方は、件名に「行方市」と入力してください。



# 豪雨になる前に 早めの避難を

避難情報に注意して、早めに避難所などの安全な場所に避難しましょう。夜間に大雨が予想される場合や、避難に時間を要する人とその支援者は早めに避難することが大切です。

# 安全な場所にいる 人は

避難とは「難」を「避」けることです。安全な場所にいる人まで避難する必要はありません。災害発生時に自分にできることは何かを考え、家族や地域で助け合う「共助」の重要性を改めて考えてみましょう。

# 新型コロナウイルス まん延下の 避難は

▼避難する場合は  
マスク、体温計、消毒液などの感染症対策グッズはできるだけ自分で携帯しましょう。可能であれば密を避けるために親戚・知人宅への避難も検討するとよいでしょう

## ▼避難所では

咳エチケットやこまめな手洗いをを行い、区画の中では家族単位で過ごし、家族以外の人とは十分な距離をとるなど、感染症対策を徹底しましょう。  
※受付時に検温の実施、避難者カードに健康状態を記入、手指の消毒等の対策をします。

# 万が一、災害が 発生した時は

いつ災害が発生してもあわてず行動できるよう、災害から命を守るために日ごろからの備えが重要です。  
日常生活の中で流れてくる災害関連のニュースに耳を傾け、どのような準備をすればいいのかを考えることも大切です。  
次ページで災害が発生した時「何を」持って「どこに」避難すればいいのかを説明します。

多言語対応アプリ  
カタログポケットを  
活用しましょう！  
音声読み上げや多言語翻訳機能が搭載された無料のスマートフォン向けアプリです。紙の情報を電子データで配信しています。  
ダウンロードはこちらから ▼

Android  

iPhone  

# 避難所の役割

大規模な災害が発生した場合には、市内施設へあらかじめ指定している担当職員を集結させ、避難所を開設します。避難所の担当職員は、災害が発生した時から3日間程度の活動を想定しています。初期の混乱期における避難所の開設などの支援を行います。実際の運営管理については、避難者の自主管理です。避難所では、防犯対策、プライバシーの確保、衛生を保つことを忘れずに行います。

また、各避難所の備蓄には限りがあります。万が一のことも考え、必要な物については、各自で避難所に持参することを忘れないようにしましょう。

## Q. どこに避難すればいいですか？

A. 下記避難所のほか、近隣の頑丈な建物や自宅の安全な場所へ避難しましょう。危険が迫ったとき、屋外へ避難すべきか、屋内で安全を確保すれば良いか判断しなければなりません。

## Q. 市の指定された避難場所に行けない場合は、どのような避難行動を取るべきですか？

A. 安全な場所の親戚・知人宅への避難を検討してください。難しい場合には、安全な場所で車内待機をするのも一つの手段です。ただし、長時間車内で待機する場合には、エコノミークラス症候群に注意しましょう。

## Q. 普段から防災無線が聞きづらいのですがどうすればいいですか？

A. 防災無線が聞きづらい場合、放送内容を電話音声で案内するサービス（☎ 0120-34-0811）があります。避難行動や情報収集に使いましょう。



▲感染症対策のため避難所内で実際に使用するテント



▲避難所開設訓練の様子  
7/27 (火) 北浦体育館

## 避難所※災害時の状況により、下記以外に開設する場合があります。

麻生地区	麻生公民館体育室 (麻生 1221) 麻生東小体育館 (蔵川 549)
北浦地区	北浦体育館 (山田 2175)
玉造地区	玉造運動場B&G体育館 (玉造甲 3190)

## 非常用持ち出し品の一例



スマートフォン



モバイルバッテリー



貴重品



食料



着替え・下着



飲料水・生活用水



ウェットティッシュ



タオル



携帯用スリッパ

※ご自身や家族の状況を考え、ほかにも、おむつ・液体ミルク・生理用品・化粧品・常備薬・防寒具・母子手帳など、普段の生活を送るために何が必要かを考え、それらを準備するようにしましょう。

## 感染症対策



マスク



消毒液



体温計

## 避難指示は必ず避難！！

避難勧告は廃止になりました。

※警戒レベルは令和3年5月20日から変更になりました。右のQRコードからご確認ください▶



警戒レベル	とるべき行動など	避難情報など
5	すでに災害が発生している状況です。命を守るために最善の行動をとりましょう。	緊急安全確保 (市が発令)
4	<b>対象地域の住民は全員避難しましょう。</b>	避難指示 (市が発令)
3	高齢者、障害者、乳幼児などとその支援者は避難をしましょう。その他の人は、避難の準備をしましょう。	高齢者等避難開始 (市が発令)
2	ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。	洪水注意報 大雨注意報 (気象庁が発令)
1	災害への心構えを高めましょう。	早期注意報 (気象庁が発令)